第 348 号
平成19年(2007年)11月29日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
〒564-8680
大阪府吹田市山手町 3 - 3 -35
TEL 06-6368-1121（代表）
http://www.kansai-u.ac.jp/

法の女神の目隠し

栗原　宏武

ギリシャ神話に出てくる女神テミスは、法の女神とされる。目に目隠しを施し、右手に正邪を断ずる剣を掲げ、左手に公平・公正を表す天秤を持つ女神像は、法・正義・裁判の理念を表す象徴として、裁判所や法律事務所などに飾られていることが多い。その女神像になぜ目隠しが施されているのか。一般には、人の容貌や態度などの外観にとらわれず、先入観や予断を持たず、公正に裁くことの象徴として目隠しをしているのだと説明されることが多いが、私の理解によれば、他に、裁きは目で見て行うのではなく、剣と天秤のみにより正邪を厳正に断じるものである、人の目は誤魔化せても法の目は誤魔化せない、という法の権威や裁判の峻厳さをあらわす意味も込められていると思われるのである。

その故に、この像が学校や企業等の身近なところにも置かれていれば、多くの人が法の権威や裁判の峻厳さを思い起こす機縁となり、偽装事件等の不祥事の防止にもつながり、健全な社会生活や企業経営等に資するところが大きいのではないかと考えている。

私達の日常生活や企業等の経済活動は、いずれも自由な自己決定に基づいて営まれるが、社会のルールである法律や個人間の約束事である契約等には従うべきものとされる。その違反に対してはさまざまなペナルティが科され、それによって法や契約の遵守が確保され、秩序ある平穏な社会生活や経済活動が維持されることになるのである。この基本的なあり方自体に変化はないが、急速に進展する社会のグローバル化などの状況を受け、事前の法規制や調整を緩和し、より自由で主体的な個人の活動を促し、自己責任の下に活性化した社会の実現をめざすこととなってきた。そのような中にあって、規制や調整が緩和される趣旨を正解せずに、自由な活動という隠れ蓑の下に自らの利益のみを優先させ、人の目を誤魔化すルール違反を繰り返して省みない個人や企業が続出する異常な事態が続いている。文書偽造・瀆職（とくしょく）・談合・脱税・報酬や補助金の過大請求等々の不正を報じる記事が新聞の社会面を埋め尽くすのも珍しいことではない。マンションの建築設計をめぐる耐震強度偽装事件が大きな社会問題となり、関係者が刑事訴追を受け、関係企業が倒産したのはついこの間のことであったというのに、またもや同様の偽装事件が表面化しているほか、あの業界、この業界において、老舗を誇る業者の取り扱う各種商品等（料理・乳製品・食肉・精米・菓子・建築資材等々）に製造日・賞味期限・産地・品質等の偽装のあることが相次いで発覚し、業者が行政の指導を受け、遂には休業や倒産に追い込まれるという事態も後を絶たない。意識的に消費者の目を誤魔化してきた業者もあれば、消費者や従業員の声を歪んだクレーマーや内部告発者の声として等閑視し、自らの不正を正すことを怠ってきたという業者もあるが、いずれも不正が表面化した他社の先例を単なる「不運」や「災難」としてしかとらえず、自らの活動についての教訓や戒めとして活かすことをしてこなかったというものである。倫理観に欠ける経営姿勢であるという以上に、危機管理上の問題意識にも欠ける危うい経営姿勢であるというほかない。法の運用も企業の活動も、それが適正に行われるかどうかは、所詮はそれを動かす部署に人を得るか否かということが大きい。いずれは世に出てそれらの運用や活動に携わることとなる最高学府で学ぶ諸君においては、これらの道理をしっかりと学んで将来に備えることが大切である。女神の目隠しについてもよく学んで貰いたいと思うこの頃である。

（法科大学院教授）

HEADLINE

2面　高松塚古墳壁画、陶板で再現
4・5面　特集「関西大学の教育改革」
6面　社会学部四十周年記念フェスティバル開催
7面　体育会覇業披露式　成績優秀者を表彰
8面　特集「学園祭こぼれ話」

千里眼

専門が語学関係であることから、「ペラペラでしょう？」と言われることが多い。そうであるにこしたことはないのだが、現実にはそううまくいかない▼日常から外国語に触れているのは間違いない。が、職業的に外国語を使用する分野は限られており、大学の仕事が多忙な時期は、授業準備のために教科書の音声資料を聞くだけの日々が続く。語学能力は楽器演奏やスポーツと同じく実技なので、継続して使い続けないと確実に低下する。また、何についても同じだが、苦手な分野は努力しなければ磨かれない▼そういうわけで、数年前から意識的に自己の語学能力を磨くよう心がけている。月並みだが、学期中は授業準備をしながら朗読CDを聴く、通勤時間に小説を読む、ネットニュースを聞く、などして外国語に触れる機会を増やす▼長期休暇中は語学学校に通うこともある。受講している授業では学生なので、指名され意見を述べる時は緊張する。学習者と教師の間を文字通り「行き来」しながら、「学び」とは何かを探りつづける毎日である。

（平嶋　里珂）

高松塚古墳壁画、陶板で再現

35年前の写真から「飛鳥美人」など製作

来年3月完成予定 千里山キャンパスに展示室

奈良県明日香村にある高松塚古墳の壁画を陶板で再現する展示施設「高松塚古墳壁画再現展示室」（仮称）が、千里山キャンパスの簡文館前庭に設置されることになった。

昭和四十七年三月、故網干善教名誉教授（当時は文学部助教授）が考古学研究室の学生らとともに極彩色の壁画を発見してから三十五年。「世紀の大発見」と称えられたこの発掘調査に、関西大学が関わった史実を後世に伝えるとともに、今後の教育・研究に資することを目的として製作される。完成は、来年三月の予定である。

簡文館前庭に設置される「高松塚古墳壁画再現展示室」（仮称）の完成予想図

学芸員インターンシップ開始

天理参考館でのインターンシップの様子

関西大学博物館学課程では、従来から学芸員資格に関する講義や実習の内容改善を随時行ってきたが、即戦力を求める時代の趨勢に対応して、博物館実習の履修者および学芸員資格の取得者を対象とした「学芸員インターンシップ」制度の導入をはじめた。

平成十九年度は、天理大学附属天理参考館へ一人、芦屋市立美術博物館へ十三人を派遣。受入先の学芸員の指導に従って、特別展の開催直前までの作業を実習した学生は、解説パネルの掲示や展示写真の選択などを担当した。また、看視員としての実習を体験した学生は、来館者に直接対応することで学芸員としての自覚を深めた。

今年度は試行的な観点から限定的に実施したが、来年度以降は範囲を拡大し、制度の充実を図っていく。

（博物館事務室）

平成19年度就職状況

平成十九年度の就職環境は、日本経済新聞社の採用計画調査（平成十九年三月二十日発表）によると、「主要企業の新卒採用予定数は、昨年度比で十三・五％増」と発表され、これを裏付けるように、メガバンクや損保をはじめとした金融業、電機や自動車関連の製造業などの採用意欲がさらに活発になり、昨年度に引き続き「バブル期を上回る求人意欲」と表現されている。このように、学生にとって雇用環境は前年度からますます好転しているが、複数の会社から内々定を得る学生と、なかなか良い結果を得られない学生の二極化が顕著になっている。キャリアセンターでは、まだ内定を得ていない学生の就職支援を引き続き行っているので、大いに活用してほしい。（キャリアセンター）

就職説明懇談会を開催

十月十四日、千里山キャンパスで、三年次生父母対象の就職説明懇談会が開催され、千三百五十九人の父母が出席し、キャリアセンターからの就職についての説明に真剣に耳を傾けた。また、希望者には、個人面談も行われた。

なお、十二月二日（日）には一・二年次生父母対象の就職に関する説明会が千里山キャンパスで開催され、本学校友で株式会社オービックの代表取締役会長兼社長の野田順弘氏の特別講演（二年次生父母対象）が予定されている。（教育後援会）

国際シンポジウムを開催

「文化交渉学の可能性を考える」

十月四日・五日、文部科学省グローバルCOEプログラムに採択された本学「文化交渉学教育研究拠点」が百周年記念会館にて第一回国際シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、河田悌一学長、拠点リーダーが開会の挨拶を述べ、拠点ロゴが披露された。「人文学のノーベル賞」と称される、アメリカ国会図書館「John W. Kluge 人文学終身成就賞」の二〇〇六年受賞者である余英時プリンストン大学名誉教授が「中日文化交渉史に関する初歩的考察」と題する記念講演を行った。海外からは北京・上海・武漢・香港・台北・ソウル・シンガポール・ローマ・エアランゲンから、国内は東京大学・京都大学・大阪大学・二松学舎大学から、関係研究者が参加し、拠点の創立を祝賀するとともに、さまざまな角度から文化交渉学の意義と可能性を検討した。

（拠点リーダー　陶　徳民）

「豊臣期大坂図屏風」をめぐる国際シンポジウム

新発見に高い関心

九月二十八日にオーストリア・グラーツ市のエッゲンベルク城博物館に所蔵される「豊臣期大坂図屏風」をめぐる国際シンポジウム「朝日・大学パートナーズシンポジウム」では、現存する他の大坂図屏風や洛中洛外図屏風との比較を通して、本屏風に描かれた内容について議論を深めた。両研究センターでは、州立博物館ヨアネウムと大阪城天守閣との共同研究協定にもとづき、これからも「豊臣期大坂図屏風」の研究を進めていく。

（なにわ・大阪文化遺産学研究センター）

景や、制作年代・作者などについて熱く意見が交わされた。また、翌二十九日の「豊臣期大坂図屏風」シンポジウム」では、現存

なにわ・大阪文化遺産学研究センターでは、州立博物館ヨアネウムと大阪城天守閣との共同研究協定にもとづき、これからも「豊臣期大坂図屏風」の研究を進めていく。

（なにわ・大阪文化遺産学研究センター）

日とも会場にはほぼ満員の聴衆が集い、熱心に議論に耳を傾け、本屏風への関心の高さがうかがえた。

北大阪ミュージアム・ネットワークを開始

関西大学博物館は、大学キャンパス内における一般公開施設として、北大阪七市三町（池田・箕面・豊中・吹田・摂津・茨木・高槻・島本・能勢・豊能）の博物館・美術館・動物園など四十五施設と連携して、地域文化の発展を目的とする新たな社会貢献活動に取り組んでいる。

文化庁の平成十九年度芸術拠点形成事業として委託された、北大阪ミュージアム・ネットワーク（KOMネット）の実行委員会事務局として、北大阪七十五施設すべてを網羅した「北大阪ミュージアムマップ」も配布予定である。

十九年度は、箕面公園昆虫館など十一館を舞台とした「さわやか発見ラリー」、西国・能勢街道を巡るウォーキングや関西大学博物館展示会「吹田を知る」などを実施するほか、来年三月には北大阪四十五施設すべてを網羅した「北大阪ミュージアムマップ」も配布予定である。

（博物館事務室）

秋の叙勲

佐藤　博名誉教授
高堂俊彌名誉教授
瑞宝中綬章を受章

佐藤　博
名誉教授

高堂俊彌
名誉教授

佐藤博名誉教授および高堂俊彌名誉教授が、秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章した。

佐藤名誉教授は、昭和二十八年一橋大学経済学部卒業。三年年同大学院修士課程修了後、本学経済学部助手に就任し、四十三年から教授。平成十年三月に定年退職するまでの間、経済学部長、就職部長などの要職を歴任した。専門である財政学の分野において、綿密にして重厚な研究活動に従事し、当時社会主義財政であった旧ソ連に「取引税」が存在すると日本ではじめて紹介するなど、社会主義財政とりわけ旧ソ連財政研究における日本を代表する研究者である。

高堂名誉教授は、昭和二十五年本学経済学部（旧制）を卒業、二十七年同大学院（旧制）中退。同年本学商学部に助手として就任し、四十四年から教授。平成十年三月に定年退職するまでの間、商学部長、就職部長の要職を歴任した。一貫して、企業の経営現場における労使関係の深刻な現実に関心を抱き、その根幹たる経営労務の在り方を経済学的な基礎に立脚しながら精査・探求してきた。また、関係学会の理事として、学会活動の国際化の一層の促進と若手研究者の育成に大きく貢献した。

全国で教育懇談会

17会場、盛会で終了

関西大学と関西大学教育後援会では本年度も地方教育懇談会を開催し盛会裡に終了した。

開催日・開催地・出席者数は次のとおり。		
八月二十八日（火）	富山市	62
〃	松山市	136
八月二日（金）	山口市	95
〃	東京都	79
八月三日（金）	徳島市	72
〃	米子市	45
九月四日（火）	佐賀市	41
八月五日（日）	名古屋市	182
〃	岡山市	203
九月九日（日）	札幌市	23
八月二十四日（金）	熊本市	44
九月十六日（日）	新潟市	29
〃	姫路市	97
九月三十日（日）	奈良市	132
八月二十六日（日）	鹿児島市	50
〃	福井市	88
十一月四日（日）	和歌山市	129

（教育後援会）

学事短信

◆経済学部

十二月十四日（金）十六時二十分から千里山キャンパスBIGホール100で、「グローバルクライシスにおけるアメリカの対外政策」と題し、フランシス・フクヤマ本学客員教授による講演を実施する。今回の講演は、国際理解を深めるための「日本・アジア・世界」シリーズ連続講演会最終回として行うもの。これまでも、猪木武徳本学客員教授・国際日本文化研究センター教授、クマーラ・アーナンダ鈴鹿国際大学教授による講演会を実施し、多数の来聴者を得た。本学構成員のみならず、一般の参加も歓迎する。聴講無料・申込不要。

大学トピックス

●現代GPシンポジウム第一回「丹波を知る」「地域再生」公開講座を開催

環境都市工学部では、十一月三日、文部科学省「平成十九年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択された「農山村集落との交流型定住による故郷づくり―持続的に〝関わり続けるという定住のカタチ〟による二十一世紀のふるさとづくり―」の第一回公開講座を開催した。当日は、学内外から八十人を超える参加者があり、採択されたプログラムの内容を紹介するとともに、講演会・本学学生による報告会が行われた。

●ミズーリ大学セントルイス校およびエアランゲン・ニュルンベルク大学と協定を締結

本学ではアメリカのミズーリ大学セントルイス校との間で覚書および学生交換協定を、ドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学との間で国際交流計画に関する基本協定および学部・大学院学生交換協定を締結した。これにより、協定大学は三十九校となる。

ミズーリ大学セントルイス校のビジネススクールは、MBAの一般評価基準であるAACSBの認可校であり、会計学においてはセントルイス地域唯一のACSB認可校である。

また、エアランゲン・ニュルンベルク大学では、日本の科学技術や政治経済、文化に対する関心が非常に高く、日本学科で学ぶ学生が多数おり、数名の日本人教師も在職している。

●KUBIC2008の日程が決定

関西大学ビジネスプラン・コンペティション（KUBIC2008）の日程が決定した。応募期間は、平成二十年四月一日（火）から六月三十日（月）、本選会は平成二十年十月四日（土）。KUBICは、平成十八年に本学商学部の創設百周年記念事業の一環としてスタートし、次回で三回目となる。

創立百二十周年記念事業募金終了にあたって

関西大学創立百二十周年にあたり、平成十四年九月から開始した創立百二十周年記念事業募金は、予定された五年間の期間を経て、平成十九年八月末日をもって終了いたしました。

この間、学内外を問わず、広範な社会各界のみなさまからのご理解を賜り、当初の募金目標額三十億円を大きく上回る四十六億円余に達するご協力をいただきました。これもひとえに、本学に寄せられた熱意と期待の現われであり、深謝に堪えません。

みなさまから賜りましたご寄付は、創立百二十周年記念事業の資金として、ありがたく活用させていただいております。このたびの周年事業は、「①学生文化の活性化に向けて（総合学生会館の建設、スポーツ振興基金の設定、奨学基金の充実）」「②教育の高度化・情報化のために（法科大学院棟の建設、ビジネス・技術教育用インテリジェント施設の建設、高度情報教育施設の増築）」「③教育環境の整備（キャンパスアメニティの整備）」「④記念行事等（記念行事・記念式典の挙行、記念刊行物『関西大学120年のあゆみ』および『関西大学百二十年史』の出版、記念DVDの製作、記念植樹）」の四つを大要とし、みなさま方のご支援のもと、本学の教育・研究の一層の充実・向上に資するものとなりました。

ここに、関係各位のご尽力、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。

（資金課）

第14回FDフォーラム
授業環境の改善を議論

十一月二十一日、千里山キャンパス以文館カンファレンスルームおよび高槻キャンパスTB一〇一教室同時中継）において、「みんなのFDⅢ～TA、授業支援SA、授業支援アドバイザ　リースタッフによる教育支援～」と題し、第十四回FDフォーラムを開催した。

教員志望の学生諸君を対象に、教員採用試験の受験準備に必要な情報や体験談を提供するとともに、教師の仕事について認識を深める機会として、フォーラムを開催する。

なお、講師、パネラーとして、本学出身の現職教員、大阪府教育委員会関係者、本年度採用試験合格者等を予定している。

日時　十二月八日（土）十四時四十分～十七時三十分

会場　千里山キャンパス第三学舎四号館　ソシオAV大ホール

■プログラム

第一部　基調講演・「生徒の学びと教師の成長」

第二部　パネルディスカッション・採用試験合格者を囲んで―「教師の仕事と私の抱負」―

（全学共通教育推進機構　免許・資格部門委員長　玉田勝郎）

国語教育研究機構教授、板野智昭システム理工学部専任講師および豊田真穂文学部専任講師から、ティーチングアシスタント（TA）の効果について現状と将来展望の報告を行った。

第二部では、昨年九月から設立された教務センター授業支援グループで、授業技術等を支援するアドバイザリースタッフ（AS）から一年間の活動と将来展望について報告があった。また、授業環境の改善を支援するスチューデントアシスタント（SA）および事務職員も議論に加わり、各々の立場から授業支援の将来展望について議論を深めた。

（全学共通教育推進機構）

教職課程・教員養成フォーラムを開催

平成19年度秋学期客員教授7人を委嘱

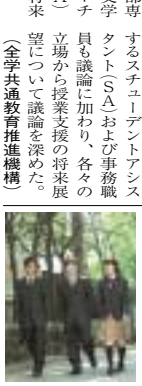
本学では、学術研究および教育水準の向上を図るために、次の七人を平成十九年度秋学期客員教授として委嘱した。

トヨタ自動車専務取締役　井川　正治
東大寺第219世当　上野　道善
日本学術振興会理事長　小野　元之
慶應義塾大学教授　竹中　平蔵
パソナ代表取締役グループ代表兼社長　南部　靖之
オービック代表取締役会長兼社長　野田　順弘
武雄市長　樋渡　啓祐

併設校ニュース

●関西大学北陽高校開校に向けて

平成二十年四月に第一期生を迎えるため、生徒・保護者向け入試説明会を開催し、全三回で延べ三千五百人を越える参加者があった。



説明会と併せ、個別相談や学校見学・クラブ見学会なども実施された。男女共学化、スポーツの伝統校、リニューアルされる施設、そして関西大学との連携など、新生「北陽高校」に対して、受験生や保護者らは真剣な眼差しを注いでいた。

来春誕生する本学ふたつめの併設校に、社会の期待は大きい。（総合企画室）

2008年度 入学試験要項・願書を頒布中

二〇〇八年度入学試験要項・願書（六百八十円、消費税を含む）は、全国の主要書店で販売中です。

郵送の場合は、テレメール（二十四時間コンピュータ応答電話またはインターネット）を利用してください（送料込みで千円）。テレメールは、☎06-6222-6625です。なお、入試センターウェブサイト（Kan-Daiweb）からアンケートに答えて請求する場合や千里山キャンパスのインフォメーションロビー、高槻キャンパスオフィスなどに来学の場合は、無料で配付しています。

http://telemail.jp にアクセスしてください。その際の資料請求番号は150

（入試センター）

各種資格試験や採用試験合格者

国が実施する各種資格試験や採用試験のうち、本学関係者の合格者が次のとおり判明した。

〔新司法試験〕三十二人
〔旧司法試験〕二人
〔弁理士試験〕六人
〔国家公務員第Ⅰ種試験〕七人
〔国家公務員第Ⅱ種試験〕八十九人

司法試験・弁理士試験に合格

本学出身の合格者は、新司法試験は三十二人、旧司法試験は二人、弁理士試験は六人でした。リードセンターでも受講生から合格報告を受けています。

国家公務員試験でも健闘

今年度、国家公務員Ⅰ種試験に最終合格した本学出身者は七人（うちリードセンター受講生は五人、国家公務員Ⅱ種試験に合格した本学出身者は八十九人でした。リードセンターでも、国税専門官をはじめ、大阪府、兵庫県、京都市などの地方上級職に合格した受講生から合格報告を受けています。

平成二十年度「講座案内（パンフレット）」は十二月上旬に完成

受講モデルプランやガイダンスの詳細が一目で分かる情報満載の「講座案内（パンフレット）」を学内随所に配置します。ぜひご覧ください。

問い合わせはリードセンター事務室へ
☎06-6368-0721

平成20年度 在外研究員一覧

学部	資格	氏名	在外研究員の種別	主たる目的国
法	教授	小泉　良幸	学術（1年）	イギリス
	准教授	吉田　直弘	学術（1年）	ドイツ
文	准教授	宮本要太郎	学術（1年）	イギリス、アイスランド、アメリカ
	准教授	森　貴史	学術（1年）	ドイツ、オーストリア、スイス、フランス、ベルギー、オランダ、イギリス、ポーランド、チェコ、ロシア、ポリネシア
	教授	木庭　元晴	調査（6カ月）	ニュージーランド、オーストラリア、インドネシア、アメリカ
	教授	野浪　嗣生	調査（6カ月）	フランス、ベルギー、イタリア、イギリス
経済	教授	本西　泰三	学術（1年）	アメリカ
	准教授	斎里　竜	学術（1年）	イギリス
	教授	松下敬一郎	調査（6カ月）	アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ
商	准教授	徳永　昌弘	学術（1年）	イギリス、フィンランド、スウェーデン、ハンガリー、ロシア、アメリカ
	教授	鶴田　廣巳	調査（6カ月）	スウェーデン、フランス、ベルギー、スイス、イギリス、スペイン、イタリア、ドイツ、オーストリア、デンマーク　他
社会	准教授	橋本　理	学術（1年）	イギリス、イタリア、スウェーデン、オランダ、ハンガリー、フランス、ドイツ
	准教授	間淵　領吾	学術（1年）	アメリカ
	教授	雨宮　俊彦	調査（6カ月）	アメリカ、イギリス、スイス
総合情報	教授	加藤　隆	学術（1年）	アメリカ、カナダ、イギリス
	教授	北島　治	学術（1年）	アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、スイス
	教授	伊藤　俊秀	調査（6カ月）	EU、アイスランド、ノルウェー、スイス、モロッコ、チュニジア、エジプト
理工 システム	准教授	安田　陽	学術（1年）	イギリス
	専任講師	田地川　勉	学術（1年）	イギリス
都市環境工	教授	堂垣　正博	調査（3カ月）	アメリカ、カナダ、メキシコ等
生命化学工	准教授	丸山　徹	学術（1年）	アメリカ　他
研究機構 外国語教育	教授	菊地　敦子	学術（1年）	ニュージーランド、アメリカ、イギリス、イタリア、フランス、インド
	准教授	名部井敏代	学術（1年）	カナダ、ドイツ、アメリカ
研究科 法務	教授	山中　敬一	調査（6カ月）	ドイツ、フィンランド、ポーランド、スイス、オーストリア、その他

※会計研究科は候補者の申請なし

2008年度 スポーツ・フロンティア入試 合格者は29競技148人

本学はスポーツ実績に秀でた高校生を対象にして、二〇〇三年度にスポーツ・フロンティア入試（以下「SF入試」という）を導入した。多様化が進む社会にあって、大学もさまざまな活力に富んだ学生を求めている。この入試もその一端を担っており、導入後数年を経て、学園はますます活気づいている。

去る八月二十七日から三十一日にかけて出願を受け付け、募集の三十七競技に対して三十一の競技に二百四十四人の出願があった。第一次選考は書類選考で九月十一日に百五十三人の合格者を発表、第二次選考（面接〈口頭試問を含む〉・小論文等）は九月二十七日に最終合格者百四十八人を発表した。本学のSF入試は年々認知度が高まり、競技レベルが前年度を凌ぐようになっている。SF入試の出願資格は「高等学校における全体の評定平均値が三・四以上（法学部は三・六以上）」であり、かつ「都道府県大会で優勝もしくは準優勝、または同様の成績を収めたチームの正選手として出場」相当以上の者としている。しかし、近年の志願者は入学レベルが前年度を凌ぐようになっている。

二〇〇八年度のSF入試については、とりわけフィギュアスケートやアイスホッケーの競技に優秀な生徒の応募があった。また、出願者数から見るとサッカー、陸上に根強い人気がある。これらは本学がアイスアリーナを始めとした施設、クラブでの指導体制を充実させていることも反映していると考えられる。

（アドミッション・オフィス）

2008年度 SF入試 志願者・合格者状況（種目・学部別）

	全出願者（人）											第2次選考合格者（人）										
	法	文	経済	商	社会	政経	総情	シス	職	医学	計	法	文	経済	商	社会	政経	総情	シス	職	医学	計
アイススケート	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3
アイスホッケー	1	1	0	0	0	3	0	—	—	—	5	1	1	0	0	0	3	0	—	—	—	5
アーチェリー	1	0	0	2	2	0	0	1	0	0	6	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	4
アメリカンフットボール	0	1	2	1	0	4	0	—	—	—	8	0	1	2	1	0	4	0	—	—	—	8
空手道	0	5	1	0	0	3	0	0	0	0	9	0	4	1	0	0	3	0	0	0	0	8
器械体操	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弓道	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
剣道	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
日本拳法	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
ゴルフ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
サッカー	5	4	2	3	4	6	0	—	—	—	24	4	2	2	3	2	5	0	—	—	—	18
自転車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
柔道	1	2	0	0	2	2	0	0	0	0	7	0	2	0	0	2	2	0	0	0	0	6
重量挙	0	3	0	2	0	0	0	0	0	2	7	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	6
水上競技	0	2	1	4	4	1	2	1	0	0	15	0	1	0	1	2	0	2	0	0	0	6
スキー競技	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
漕艇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ソフトテニス	1	0	1	4	2	2	0	1	0	0	11	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
ソフトボール	0	2	1	2	1	0	0	—	—	—	6	0	0	0	0	1	0	0	—	—	—	1
卓球	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
テニス	0	5	2	2	1	1	0	0	0	0	11	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
なぎなた	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
馬術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バスケットボール	0	1	1	1	3	1	0	—	—	—	7	0	1	1	0	2	0	0	—	—	—	4
バドミントン	1	2	2	2	1	0	0	1	0	0	9	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
バレーボール	0	1	0	1	0	0	0	—	—	—	2	0	1	0	0	0	0	0	—	—	—	1
ハンドボール	1	3	0	2	1	2	2	—	—	—	11	1	2	0	2	1	2	2	—	—	—	10
フェンシング	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	5	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
ボクシング	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	4	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	4
陸上ホッケー	1	1	2	0	0	0	0	—	—	—	4	1	0	1	0	0	0	0	—	—	—	2
硬式野球	1	2	3	5	5	2	0	—	—	—	18	1	1	2	4	2	2	0	—	—	—	12
ヨット	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ラグビー	0	3	1	2	0	5	1	—	—	—	12	0	2	0	1	0	4	1	—	—	—	8
陸上競技	6	8	3	3	5	1	0	1	0	0	27	3	5	2	1	3	1	0	0	0	0	15
レスリング	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	4	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	4
射撃	0	3	1	0	2	0	1	0	0	0	7	0	3	1	0	1	0	1	0	0	0	6
計	21	59	29	39	39	37	10	7	0	3	244	14	37	15	20	21	28	8	3	0	2	148

高槻の風

毎週木曜日の三時限目は、総合情報学部の正課体育の複数クラスが高槻キャンパスのスポーツ施設を利用するために、グラウンドやアイスアリーナの施設に活気が漲る時間である。

その一つである「関西大学アイスアリーナ」は、昨年の七月十三日に竣工して以来、本学の大学行事、課外活動団体のアイスホッケー部、アイススケート部、

総合情報学部秋学期の正課体育

一般の学生への開放をはじめ、他大学課外活動団体、近隣小学校、地域住民への開放等多くの人びとに利用されている。

また、それらに加え、正課体育で昨年の集中授業での利用に続き、本年は十月、十一月に総合情報学部正課体育の三浦敏弘教授のクラスでも利用された。スケートの授業では、貸しスケート靴（要事前申込）を履くことから始め、怪我の防止のための帽子と手袋を着用することになる。準備ができた受講生は、氷の感触を確かめながら恐る恐るリンク内に入っていく。受講生がリンク内に揃うとオリエンテーションが行われる。続いて実技指導であるが、ここでは、バランスを取ることから始まり、膝を曲げ、両手を広げてバランスを取る滑走と教授の熱心な指導が繰り返される。

徐々にではあるが受講生は、スケートのレベルが向上し、他大学では経験できない授業を体験することになる。

今後も多くの学生諸君が「関西大学アイスアリーナ」を利用し、ウインタースポーツに親しむことを期待する。

（教務センター　高槻キャンパス事務チーム）

退職記念最終講義の日程

来年三月をもって定年退職する教員の退職記念最終講義が、左表のとおり予定されているので、奮って聴講してほしい。

学部	氏名	月・日・時間	場所	テーマ
法	池田　敏雄　教授	1月9日（水）13時00分～14時30分	第1学舎2号館B202教室	実践行政法と市民行政法
文	遠藤　邦基　教授	12月15日（土）16時～17時	第1学舎5号館E403教室	仮名ちがいの許容の限界―ことば遊びを対象に―
	上村　哲彦　教授	12月20日（木）14時10分～15時10分	第1学舎3号館AV―B教室	サウスウェストのレンズ
	長谷川存古　教授	12月20日（木）16時20分～17時20分	第1学舎3号館AV―B教室	発話行為論の目指すもの
	川本　武之　教授	1月8日（火）10時40分～12時10分	第1学舎5号館E403教室	からだとこころの健康教育
総合情報	野口　宏　教授	1月10日（木）10時40分～12時10分	高槻キャンパス図書・教室棟TB301教室	情報化を歴史的にとらえる

文部科学省GP等　教育改革支援プログラム

文部科学省は、各大学などにおける大学改革の取組が一層推進されるよう、国公私立大学を通じた競争的環境の下で、特色ある優れた取組を選定し、支援を行っています。本学では、「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成」がグローバルCOEプログラムに採択されたことをはじめ、ほかにも今年度合計７つのプログラムが採択されるという高い選定実績を誇っています。今回の特集では、文部科学省「教育改革支援プログラム」に選定された本学の取組を取り上げ、本学の教育改革の最前線について紹介します。

関西大学の教育改革

関西大学ＥＵ－日本学教育研究プログラム

「大学院教育改革支援プログラム」に採択

21世紀を支える人材養成をめざす

ベルギーのルーヴェン・カトリック大学に、本学が「関西大学日本・ＥＵ研究センター」を設置していることを知っていますか。日本学者として著名なDr.Willy Vande Walle教授を中心とする日本学スタッフと本学教員との研究者交流、語学留学を中心とする学生交換など、平成３年に学術交流協定を締結し、両大学に培われてきた実績が、本学初の海外拠点設置へと結実したのです。

この「関西大学日本・ＥＵ研究センター」を拠点に、大学院文学研究科（総合人文学専攻）の「国際的で魅力ある大学院教育」を実質化することをめざしたプログラムが、平成19年度の文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に採択された「関西大学ＥＵ－日本学教育研究プログラム」です。海外に発信することが可能な「日本学」を、日本において構築することを目的としており、人文学教育研究の「国際化」と「学際化」を図ることによって、新たな教育研究体系を構築することをめざします。

具体的には、平成20年度から総合人文学専攻に「副専攻制」を導入し、次の４科目を新たに開講します。

- 日本学フィールドワーク
- ＥＵ－日本学講義
- 日本学学術コミュニケーション・トレーニング
- 日本（ＫＵ）・ＥＵワークショップ

「日本学フィールドワーク」「ＥＵ－日本学講義」「日本学学術コミュニケーション・トレーニング」の３科目は、それぞれ複数教員によるリレー講義を展開します。一つの科目が、専修を横断する教員によって設定されることで、幅広い知識を習得することが可能です。多元的な視野に、新たな人文学（このプログラムでは、日本の学生が発信するべき「日本研究」となりますが）の展開をめざした「学際化プログラム」としても期待できるでしょう。

さらに本プログラムの中心企画の一つに「日本（ＫＵ）・ＥＵワークショップ」があります。ＥＵで「日本」を学ぶ、みなさんと同世代の人びとと出会う場を、関西大学とルーヴェン・カトリック大学に設けます。海外から「日本」に注目する同世代と対話することによって、みなさんの世代が担うべき役割を感じ取ってくれれば、との想いがこのプログラムとなりました。

国際化する社会において「日本」を発信することの大切さは、問題化する「歴史認識の相違」にも感じられるでしょう。21世紀の知的基盤社会をリードし、支える人材を養成するために、これからの人文学に必要な視野と方法を、みなさん自身が感じ取るプログラムを展開していきたいと思います。

（大学院文学研究科総合人文学専攻）

農山村集落との交流型定住による故郷づくり

～持続的に〝関わり続けるという定住のカタチ〟による21世紀のふるさとづくり～

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）に採択

美しい日本集落を見る体験も

過疎化した農山村集落の活性化は、現代日本の大きな課題です。一方、都市住民として育った現代の大学生には、将来子供たちや孫たちを連れて帰省する豊かな山河のふるさとがありません。過疎化した集落では、人びとの定住が望まれていますが、高齢化、人口減少化社会では、現実にはなかなか難しいものがあります。まだまだ美しさの残る集落でも、若い人はいませんし、いつもひっそりとしています。そこに、学生たちが何時もいるような環境をつくることができれば、新しい定住効果が生まれるのではないかと考えました。学生にとってのフィールドキャンパスとなれば、新しい地域間の交流、世代間の交流も生まれます。

過疎化した集落には、使われなくなった空き家も多くあって、維持していくことも難しくなっています。そういった空き家を、専門家の指導を受けながら改修（リノベーション）し、学生が安価で泊まれるゲストハウスにして、滞在しやすい環境をつくるといったこと、それ自体が教育プログラムになるわけです。何度も訪れ、あるいは滞在して地元の人たちと交流し、顔の見える関係ができれば、将来、継続的に訪れたくなるふるさとになるでしょうし、過疎の集落の抱える問題の本質も見えてきて、そういったことに研究や活動で関わるなかから、本来の定住につながる

可能性も期待できます。

フィールドは、兵庫県丹波市青垣町佐治の集落です。日本海と瀬戸内海のちょうど中間に位置し、江戸時代には宿場町として栄え、その後も明治中期には製糸業で栄え、現在もその面影が残るきれいなまちなみの集落です。“現地に滞在し、専門家の指導を受けながら行う実践型プログラム”や、“現地での就業体験を通して現地を知り、考えるワークキャンププログラム”、気楽に参加できる“散策プログラム”や、現地の人たちとの“交流プログラム”が予定されています。“丹波を知る”や、“地域再生を学ぶ”公開講座も、毎月開催されます。青垣町は、日本でも数少ない“パラセーリング”のメッカです。風を感じ、空から美しい日本の集落を見ることも素晴らしい体験です。体験プログラムも用意します。すでに、毎週末には現地と大学を結ぶ無料バスが運行を開始しています。常駐スタッフのいる現地スタジオも開設されていますし、学内にも千里山スタジオが開設されています。専用のウェブサイトも立ち上がります。環境都市工学部が主体となって実施するプログラムですが、多くのメニューが公開（参加可能）されていますので、大勢の参加を期待しています。

（環境都市工学部）

映像教材を活用した総合的法実務教育の実施

「専門職大学院等教育推進プログラム」に採択

実践的な法実務能力を身につける

平成19年度の文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に、関西大学が申請した「映像教材を活用した総合的法実務教育の実施」が採択されました。これは法科大学院における法実務教育をより体系的に行うため、事件の経過を映像教材化したDVD教材を作成し、それを活用した法実務総合演習を実施するものです。

司法制度改革の根幹を担うものとして発足した法科大学院においては、法実務の実際に通じた質の高い法曹を生み出すための教育が求められています。本プログラムは、その社会的要請に応えるため、法的紛争の重要な局面ごとに訴訟手段の選択や法的文書作成のポイントを問いながら、より効果的な法実務教育を行うことを狙いとしたものです。

法科大学院で学ぶ人の中には、法律学を学んだことのない法学未修者も含まれます。法学部の学生であれば、４年間で専門的な法律の勉強をするところを、３年間で司法試験を受けるレベルまで引き上げなければいけません。また、法科大学院は、実務家を育てる専門職大学院であり、裁判所や法律事務所などでどのように応対したらよいのかという実務上のノウハウも学ぶ必要があります。この両方を習得するためには、従来の法学教育のスタイルでは到底時間が足りません。そこで法律の中身の学習と実務的な文書作成や応対の修得を組み合わせ、授業に使える効果的な教材ができないかと、実務家教員とも話し合って出てきたのが今回の提案です。

法律を学ぶための映像教材はこれまでにも作られていますが、その多くは裁判過程の映像を流すのみで、はっきり言って、あまり面白いものとはいえませんでした。今回作る教材は、紛争当事者の聞き取り場面、争訟過程における対応の選択を問う場面、必要な文書作成を促す場面を設け、法的紛争処理の流れを擬似的に体験しつつ、総合的かつ実践的な法実務能力を身につけるものとする予定です。

ＤＶＤの内容を通して見ると、法的紛争解決と訴訟手続きの全体像がつかめます。また、チャプターごとに停止し、手続きの選択について検討したり、場面に応じた文書を作成したりすることも可能です。教材はなるべく生の事件を生かした内容を予定しており、このＤＶＤをみて、困っている人を助けたいというような、法曹をめざすモチベーションを高めてもらえれば、さらに大きな意味を持つと考えています。

（法科大学院）

広がれ！　学生自立型ピア・コミュニティ

～関西大学で育む21世紀型学生気質～

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（学生支援ＧＰ）に採択

ココロの成長を導き、サポート

みなさんは「ピア・サポート」という言葉を聞いたことがありますか。「ピア」は仲間、「サポート」は…そう、学生同士でお互いを支援し合うことなんです。

近年、大学生の社会人基礎力が話題になりつつあります。学業成績は良いけれども、どうもコミュニケーションを取ることが苦手で、なんて話を聞いたことはありませんか。「人」として生きる、もっとも基本的な能力の希薄化が問われているのです。

確かに「大学受験」では、人よりも「１点」でも高得点であることが求められたでしょうし、隣で受験する人とコミュニケーションをとることなどは必要とされなかったかもしれません。でも私たちは、それだけで良いのでしょうか。今回、文部科学省が公募した平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（学生支援ＧＰ）に申請したのは「広がれ！　学生自立型ピア・コミュニティ～関西大学で育む21世紀型学生気質～」。「ピア・サポート」を通じて、みなさんが高校生から大学生へ、そして社会人へと「ココロ」の成長を導くプログラムです。

来年度から開講される全学共通教育（千里山キャンパス）において「関西大学におけるピア・サポートを考える」という科目を開講します。関西大学において、みなさんが「ピア・サポート」を行うために必要な「意識」と「方法」を学びます。心理学や人間行動学の初級講座など、仲間同士でサポートし合うために必要な、さまざまな知識や技術を修得していきます。この科目は春学期のみ開講しますが、この科目を受講すると「関西大学ピア・サポータ養成講座修了認定証」を取得することができ、学内で「ピア・サポート」を開始することができます。凜風館１階の学生センターに「学生支援準備室」を開設していますので、いつでも訪ねてみてください。ここでは、みなさんが関西大学の学生として、大学が主催する各種イベントにいかに参加するか、さらには、そういったイベントの運営に、みなさんが主体的に関わることができるような力をつけることをめざします。「学生支援準備室」は、授業中に学んだこと、日ごろから関心のあることを実践するために、みなさんがそれぞれに発想し、創造するサポートを実現していくコミュニティなのです。

来年４月には、新入生を対象とする学生生活相談や履修相談を含む各種行事が行われます。これまでは、大学が各種のイベントなどを主催してきましたが、これからは関西大学の学生として、ピア・サポータとして、いかに主体的に参加するかが問われるようになってきます。みなさんの力を集結することで、よりよいキャンパスライフを築いていきませんか。

（学生センター）

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択

団塊世代が活躍するための地域貢献型社会起業家養成プログラム

関関同立が協働して開発した事業「団塊世代が活躍するための地域貢献型社会起業家養成プログラム」が採択されました。

本事業は、団塊の世代が地域貢献型の社会サービスを提供する社会起業家として、退職後のキャリア・デザインをも見据えた地域貢献を担う人材として、NPOマネジメント論と社会起業論を核とした講座群と社会事業事例演習・インターンシップからなるプログラムを開発し、特に社会事業の起業家としての訓練機会を提供し、地域貢献型の社会サービス提供関連の事業活動を展開するための支援を目的としています。

本学をはじめ大学・大学院で構成する関西社会人大学院連合の教育資源を活用して実施し、修了者に社会起業士の修了証書を授与します。実際に地域社会でNPOなどの社会事業に参画し活躍できるよう、大阪NPOセンターなどの公的セクターとも連携を図り、プログラムの充実を図っています。本学からは、川﨑友嗣社会学部教授が基本科目「キャリア・デザイン」のプログラムを担当しています。

（社会連携センター）

「専門職大学院等教育推進プログラム」に採択

全国法曹キャリア支援プラットフォーム

平成19年度の文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」に採択された「全国法曹キャリア支援プラットフォーム」は、明治大学を中心に、本学を始め、関西学院、同志社、立命館など十三大学が共同で申請したものです。

これは、法科大学院在学生と修了者に、ウェブを通じてキャリアプランニングの支援を行うと共に、法曹・法務関係の求人・求職情報をデータベース化して、求人側・求職側双方に提供することで、法律専門職に円滑に就くことができるシステムを作ろうとするものです。

最近、司法試験に合格しても就職できない場合があることなど、法科大学院修了者の就職事情が問題となっていますが、このプラットフォームが構想通り運営されることになりますと、法務人材供給側である学生、法科大学院と、需要側である弁護士会、経済界、官公庁などが、相互理解を深め、情報交換を行うことで、雇用機会が増大することが期待できます。

（法科大学院）

SOCIOLOGY NEXT40
関西大学社会学部は2007年（平成19年）に創立40周年を迎えました。

社会学部40周年記念フェスティバル開催

次世代の人材育成をテーマに

関西大学社会学部は昭和四十二年の創立以来、今年で四十周年を迎えたのを記念して、去る十月六日・七日に四十周年記念フェスティバルを千里山キャンパスにおいて開催した。社会学部では今年度初めから「SOCIOLOGY NEXT40」をテーマに掲げ、一連の講演やシンポジウムを行っており、記念フェスティバルはそのクライマックスにあたる。

テーマの「SOCIOLOGY NEXT40」は、開会式で黒田勇学部長が述べたように、「今後さらに教育研究体制を強化し、新しい時代に活躍できる次世代の人材を育成する」という学部の目標を表現したものであり、フェスティバルもその趣旨に沿って企画された。

記念フェスティバルでは六日に「食の未来」をテーマにしたシンポジウムと記念コンサートが開催され、七日には「小論文・メディアコンテンツコンテスト」の授賞式に続いて、本学客員教授である山田洋次監督の記念講演、各界卒業生諸氏によるシンポジウム、そしてレセプションが行われた。なお、一年を通して「SOCIOLOGY NEXT40」を実行するにあたっては、社会学部の教育力とその成果を積極的に発信していくという方針も重要な柱として打ち出されており、その第一歩として六日・七日の両日午前中には学生たちによる「ゼミ・実習研究発表会」を開催し、学生・教員ともに手ごたえを感じることができたのは収穫であった。

以下、いくつかを取り上げて紹介しておきたい。

【小論文部門】
SOCIOLOGY賞　城内裕樹さん（文1）「デジタル小説の可能性」
NEXT40賞　荒木佑輔さん（社3）「夜と野球　夜間試合の誕生と野球の変化」
NEXT40賞　髙垣愛子さん（社4）「大学生の受講態度と着席位置との関係性について」

【メディアコンテンツ部門】
SOCIOLOGY賞　佐野匡男ゼミ（総情）「マナー違反」
NEXT40賞　川崎有希子さん（社4）「NEXT」

(1)10月6日 シンポジウム・記念コンサート

シンポジウム「食の未来～作る・食べる・考える」では女優の水野真紀さん、神戸スローフード協会代表の植木砂織さんをゲストに迎え、学部からは四人の教員が食について縦横に論じ合った。司会の山口誠准教授は江戸時代以降の料理本を精査のうえで、時代が進むにつれて「旬」が喪失してきていると問題提起を行い、人類学者の熊野建教授はフィールドで収集した映像をふんだんに用いて、社会の、また人生の儀礼のなかに食を位置づけてみせた。高増明教授はグローバル経済下の食の問題を資源の危機として明快に語り、飯田紀彦教授は文化としての食あるいは生活の質を測る物差しとしての食という観点を打ち出して新鮮であった。

四教員が専門的学問領域から「食を考えた」のに対し、植木さんは現代の若者の食の現状を三つの「こ」すなわち「個食・孤食・粉食」であると喝破したうえで、豊かな食事のために素材を見抜く目や知識の必要性を説いて、聴衆の実践的関心に応えてくれた。また水野さんは先輩女優から「今食べているものが10年後の自分を作る」と言われたのを心にとめていると述べ、それが作りごとでないことを会場はその姿によって納得したのだった。

シンポジウムに引き続いては、その方面では知らない人のいない（らしい）PARA（山精一）とVampilliaが文字通りホールを揺さぶる迫力のライブ演奏を行い、なんと形容したらよいかわからないが、とにかく聴衆は新しい音楽の形を驚きとともに体験することとなった。

食と先端音楽、どちらも楽しい経験であるが、食も音楽もこれまであまり研究対象としては学問の重要な地位を占めることがなかった。しかし、これほど身近で、すべての人にかかわり、文化のありようを表象する対象が常に研究の周縁に置かれてきたことはある意味で不思議なことである。同じことは身体やスポーツ、感情についても言える。今回の企画はそうした現状を踏まえての問題提起の意味もあった。

(2)10月7日 「小論文・メディアコンテンツコンテスト」表彰式・記念講演

小論文・メディアコンテンツコンテストには多くの応募があったが、残念ながらグランプリには該当がなく、準グランプリに社会学部三年次生・福山佑樹さんの「〝追体験する主体〟の誕生」が選ばれた。

福山さんの論文は一六〇〇年代から一八〇〇年代にかけての旅案内本、料理本、春画がいずれも同じような変化をたどっていること、すなわち一部の専門家用から一般の視覚的娯楽として、さらに素人向けマニュアルへと変化していくその中に、主体の変化（〝追体験する主体の誕生〟）を見るもので、丹念な資料調査と視点のユニークさが評価されての受賞であった。この研究のプレゼンテーションを見ていた河田悌一学長も視点のユニークさと質の高さには感心していた。

そのほかに五点の作品（左表）に賞が贈られた。

なおSOCIOLOGY賞受賞映像作品「マナー違反」は会場での上映も行われた。

続いて行われた山田洋次監督の記念講演「表現すること――SOCIOLOGY NEXT40――」は、いましがた上映された「マナー違反」の制作代表者である陣内淑行さん（情三）とのやり取りから始まり、あたかもオーディション会場でもあるかのように、作品に関して監督から厳しく、的確な指摘が矢継ぎ早に繰り出された。それに対して陣内さんも率直に自分の意見を述べて、二人の対話は緊張感の中にもこっちよさを感じさせるものであった。山田監督の言う、「思いつきのままに撮っても作品にはならない」「なぜイメージ通りにならないのか、時間をかけて削ったり、直したり、こうしたらどうかといろいろ苦しんで、ようやく自分が何を表現したかったのかが見えてくる。そういうときに喜びを感じる」というような点はおそらく学問の世界でも同じであろう。一方、現在の映画に対する評価として、「IT技術の進化や機材の進歩は目覚ましいものがあるが、それと作品の質とは関係がない。半世紀前に作られた小津安二郎の『東京物語』を超える映画はいまだに出ていない」といった厳しい見方をしていることも、意外な淑行さんの情熱でもあった。

食と先端音楽、どちらも楽しい経験であるが、食も音楽もこれまであまり研究対象としては学問の重要な地位を占めることがなかった。しかし、これほど身近で、すべての人にかかわり、文化のありようを表象する対象が常に研究の周縁に置かれてきたことはある意味で不思議なことである。同じことは身体やスポーツ、感情についても言える。今回の企画はそうした現状を踏まえての問題提起の意味もあった。

その後、もう一つのシンポジウム「学んだ・遊んだ・頑張った～先輩からのメッセージ」が、社会学部を卒業したのち各界の第一線で活躍している先輩たちを招いて行われ、夕刻からの記念レセプションでフェスティバルは成功裏に終わりを迎えた。

このフェスティバルを通して社会学部が実に多くの人たちに支えられており、また期待も大きいことを実感した。学部の行事に多くの教職員が労を惜しまず協力体制をとってくれることを再確認できたことも社会学部の今後にとっては大きなエネルギー源である。ご協力いただいたすべての方々にお礼申し上げたい。

（社会学部）

ドキュメンタリー映像祭

「地方の時代」12月1～8日に

日本全国のドキュメンタリー作品を集めて顕彰する「地方の時代」映像祭が十二月一日（土）から八日（土）まで、千里山キャンパス第三学舎（社会学部）で開催される。

「地方の時代」映像祭は、一九八〇年の開始以来、神奈川県川崎市、埼玉県川越市とバトンタッチしながら、〝地域のこころ、地方のこえ〟をテーマに、全国のテレビ局制作のドキュメンタリー番組や全国のCATV局や市民、高校生が制作した映像作品を顕彰してきた。

そして今年度、関西大学は、在阪放送各局の協力を得て、NHK、民間放送連盟とともに実行委員会を組織し、この映像祭を開催することになった。本学は社会学部にマス・コミュニケーション学専攻、文学部に映像文化専修があり、また総合情報学部にも映像関連の専門科目があるなど、これまでも映像に関する研究と教育を蓄積してきたが、この映像祭を契機として、さらにジャーナリズム界、メディア界との連携を深めていくことが期待される。

＜高校生部門入選作品＞
兵庫県立小野高等学校
「あさはやッ!!」

映像祭は一日（土）昼から贈賞式に引き続きグランプリ作品の上映とシンポジウム、二日（日）に入賞作品の上映と、本学留学生や高校生によるワークショップ、さらに、三日（月）から八日（土）まで応募全作品が上映される。

（「地方の時代」映像祭実行委員会企画委員／社会学部長　黒田　勇）

ユーモアあふれる吉本興業寄附講座

初回から1000人超

関西大学は今年度秋学期に、吉本興業株式会社提供の寄附講座「笑いの総合科学をめざして」を開講している。笑いを二十一世紀人間科学のフロンティアとしてとらえ、笑いの謎を解明するために、文学、哲学、心理学、社会学その他の伝統的な学問分野における笑い研究に加えて、医学、脳神経科学、情報科学といった先端分野の研究を連結しながら「笑いの総合科学」の可能性を学際的に展望する。講座はインターファカルティ教育科目テーマスタディとして開講され、初回は、日本笑い学会会長の井上宏名誉教授が笑いを研究する意義について論じた。スクリーンに映し出された赤ちゃん（実はお孫さん）の無垢な笑顔に、千人を超える受講生の笑みがこぼれた。

第二回の関屋俊彦文学部教授は「能狂言と日本の笑い」と題し、狂言の熱演つきで、ホールを埋める学生から微笑みと感動の拍手を受けた。続く竹内洋文学部教授は「ユーモアと教養」と題して、理想の大切さを説くと同時に、自省をともなうユーモア精神の重要性を語った。

また、守口敬任会病院の木保肇医師は「アトピー性皮膚炎における笑いの医学的効果」について多くの症例をもとに講義。アトピーの母子が笑顔を回復していく貴重な映像を駆使した講義に満席の学生が魅了された。「最近受けた授業の中で一番集中して聴いてしまいました。ほんまにおもしろかったです。ありがとうございました」という感想が誇張ではない名講義であった。

第七回の雨宮俊彦社会学部教授は、パワーポイントを駆使して、世界レベルでのユーモア心理学の進展状況について、第八回の吉本興業文芸顧問の竹本浩三帝京平成大学教授は、「笑うことと生きること」について、満席の若者へ熱く語った。その後、脳科学（十一月三十日、心理学（十二月七日、コントの作り方（十二月十四日）とつづいて、新年一月十一日（金）の最終講義には、いよいよ「関大笑い講（第二回）」を開催する。吉野伊佐男吉本興業社長の講話につづいて、関屋文学部教授指導のもと、狂言「福の神」を演じ、新年を寿ぐ。

（コーディネーター／社会学部教授　木村　洋二）

神坂次郎氏を迎えて公開授業

インターファカルティ教育科目「読書への誘い」では、作家の神坂次郎氏を招き、十月十三日十四時から千里山キャンパスBIGホール100で公開授業（本学と活字文化推進会議の共催）を実施した。

「今昔おかね物語」と題して、豊富な史料調査に裏付けられた古今東西の「おかね」にまつわるエピソードが披露され、約三百人の聴衆を魅了した。

なお、同授業では、十二月七日（金）の第三時限目に、ちひろ美術館・東京副館長の松本由理子氏を招き、「いわさきちひろの絵本と人生」と題した第二回公開授業を予定している。多数の学生諸君の参加を期待する。

（教務センター）

学位取得

○今野　正規／博士（法学）
北海道大学
「民事責任とリスクーフランス民事責任論に関する序論的考察―」
学位取得年月日は平成十九年六月二十九日

新刊の扉

○名誉教授　髙善眞澄訳注
『参天台五臺山記　上』
（平成十九年十一月一日・関西大学出版部・定価五千二百五十円〈税込〉）

凜風館が国土交通大臣賞を受賞

十月十九日に総合学生会館「メディアパーク凜風館」が、第六回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールで屋上緑化大賞の国土交通大臣賞を受賞した。

同コンクールは、屋上等特殊空間の緑化について積極的に取り組み、優れた成果をあげている民間企業、公共団体、個人等を顕彰することにより、その一層の普及推進を図り、もって都市環境の改善を進め、豊かな都市生活の実現に寄与することを目的とし、財団法人都市緑化技術開発機構が主催、国土交通省などが後援している。

凜風館は、課外活動スペースや食堂、店舗からなる学内厚生施設であり、サスティナブル・キャンパスをめざす大学のシンボル施設として積極的に緑化を行っている。キャンパスの豊かな緑と融合した建物緑化を実現し、学生や教職員だけでなく一般市民にもその一部を開放し、コミュニケーションの場として活用していることなどが、今後の大学キャンパス緑化の好事例として高く評価された。

体育会覇業披露式

成績優秀者を表彰

平成十九年度の体育会覇業披露式が、十一月八日、千里山キャンパス悠久の庭で執り行われた。

体育会覇業披露式は、体育会各部の試合において、優れた成績を収めた者や団体を表彰し、体育会全体の士気を一層高めることを目的としている。

今年度は、国際大会での活躍が目立ち、二〇〇七世界フィギュアスケート選手権大会で準優勝したアイススケート部の髙橋大輔さん（文四）を筆頭に、グランプリファイナルで三位入賞を果たした織田信成さん（文三）、世界競泳二〇〇七インジャパン（水泳）において準優勝の成績を収めた水上競技部の矢野友理江さん（文一）、第八回アジア空手道選手権大会で三位の成績を収めた空手道部の西村有紗さん（文二）、アジアジュニアレスリング選手権大会で五位入賞を果たしたレスリング部の梶本千晶さん（文一）ら、国際大会入賞の五人と全日本大会レベルで優勝した二団体七人に学長杯が授与された。

その他、国内の大会で活躍した合計四十二の団体および個人が表彰された。

（スポーツ振興課）

飛躍

○アイススケート部

澤田亜紀さん（文一）が、十月六日から八日に行われた二〇〇七近畿フィギュアスケート選手権大会で二位に入賞、また、十一月十六日から十八日に行われたGPシリーズ第四戦・フランス杯に出場した。さらに男子では、高橋大輔さん（文四）がフィギュアGPシリーズ第一戦・スケートアメリカ（十月二十六日・米ペンシルベニア州レディング）で、二百二十八・九七点で二年ぶり二度目の優勝を果たし、GPシリーズ通算で日本男子初の三勝目を挙げた。

○拳法部

九月十六日に大阪市中央体育館で行われた、全・日本拳法総合選手権大会で、中川絵美さん（文三）が、一般女子個人の部で優勝した。また、十月二十八日に名古屋市枇杷島スポーツセンターで行われた第二十三回全日本学生拳法個人選手権大会で、友中貴広さん（社一）が、優勝した。

○柔道部

十月十三日に東京日本武道館で行われた平成十九年度全日本学生柔道体重別選手権大会男子六十kg級で、木村良祐さん（商二）が三位に入賞した。

○水上競技部

十月二十七日から開催された競泳短水路のワールドカップ第二戦シンガポール大会で、矢野友理江さん（文一）が、女子八百メートル自由形および女子二百メートルバタフライの両種目で優勝した。続く、十一月二日から開催された競泳短水路のワールドカップ第三戦シドニー大会で、女子八百メートル自由形および女子二百メートルバタフライの両種目で準優勝した。

○馬術部

十月三十一日、十一月一日にJRA馬事公苑で開催された第五十七回全日本学生賞典障害飛越競技大会で、団体優勝（片山篤さん（法三）、斉藤正一郎さん（情三）、中谷彩夏さん（商三）、荻原麻里さん（法二））し、四十三年ぶりの全国制覇を果たした。また、個人でも中谷彩夏さん（商三）が優勝し、個人・団体二冠を達成した。

馬術部が個人・団体で優勝

セミナーハウスへようこそ

白馬梅池高原ロッジ別館完成

▼白馬梅池高原ロッジ

ゲレンデまで徒歩一分、絶好のロケーションにある白馬梅池高原ロッジは、十二月に別館とテニスコートが増設され、最大七十二人の収容が可能になり、より多くの方の利用に応える準備を進めている。心地よい運動のあとは、味、ボリューム共に満点の食事を楽しんでもらえる。ゼミ、サークル、友人同士で白銀の世界で思い出のページを増やしてもらいたい。

▼六甲山荘

大阪から一時間で行ける六甲山荘は、都会の喧騒から離れ、自然の中に身を置けるうってつけの場所である。セミナー室が増設されたこともあって、ゼミ合宿の利用者が増えている。友人同士なら、近くの人工スキー場で楽しんだ後、神戸牛の夕食を囲みながら親睦を深めるのも一興である。

【申込場所・時間】

千里山キャンパス：教育後援会（☎06-6368-0055）

高槻キャンパス：高槻キャンパスオフィス

※月～金曜日　九時～十六時まで

※白馬梅池高原ロッジの二月および三月の利用は、十二月三日（月）から受付開始（十二月および一月の利用は現在受付中）

6自治体 学園祭でPR

関西大学は教育・研究の成果を活用し、自治体と連携して事業を進め、交流を深めている。

その一環として、統一学園祭期間中の十一月三日、四日の二日間、本学と連携している自治体などが千里山キャンパス凜風館一階学生ラウンジに集結し、それぞれの地域の魅力をアピールする「地域の魅力アピールコーナー」を開催した。

このコーナーでは、六つの自治体（大阪府吹田市・高槻市、奈良県明日香村、兵庫県丹波市、広島県、福井県）により、各地域の紹介パネルの展示、地元名産品の販売のほか、それぞれ工夫を凝らした企画展が行われた。

会場は、多数の学生、教職員のほか、地域住民や一般の来場者で賑わいを見せ、一人ひとりが各自治体の魅力に触れ、交流を深めた。（社会連携センター）

ウォームビズを実施

ECOキャンパスへの取り組みの一環として

本学では、十一月二十日から翌年三月二十日までの間、すべてのキャンパスで、ウォームビズを実施する。期間中は暖房時の室内温度を二十℃に設定、不要照明の消灯などの省エネルギーに取り組む。

夏季に実施したクールビズでは、温室効果ガス（CO_2）の排出量を、「前年同月比二・五％削減する」という目標設定に対し、四・六％削減することができた。この実績を受け、今回のウォームビズでは、温室効果ガス（CO_2）の排出量を「前年同月比一・八％削減する」ことを目標とする。

さらには、関西大学生活協同組合の協力を得て、学生食堂で根菜や香味野菜を使った体を温めるメニューの提供、購買部では寒さ対策グッズの特設売り場を設けるなど、全学をあげてウォームビズに取り組むことにしている。

受賞

○全国珠算教育連盟

◆平成十九年度全日本珠算選手権大会　種目別読上算競技　優勝

社会学部一年次生　糸数めぐみ（平成十九年八月八日）

○日本港湾経済学会

◆二〇〇七年度　論文賞

最優秀賞

商学部准教授　飴野　仁子（平成十九年九月六日）

○世界文化社

◆第十二回家庭画報大賞（夢のある美しい暮らし）ウェッジウッド賞

社会学部二年次生　浦　大典（平成十九年九月七日）

○日本金属学会

◆第三十回日本金属学会技術開発賞

化学生命工学部教授　池田　勝彦（平成十九年九月十九日）

○社団法人日本機械学会

◆功労賞（機械状態監視資格認証制度創設）

システム理工学部教授　岩壷　卓三（平成十九年十月二十六日）

○社団法人大阪広告協会

◆第六回MADE IN OSAKA CM AWARDS

学生部門　ラジオCM最優秀賞

総合情報学部四年次生　原田　宗平、矢間　清浩、西田　泰大、中嶋　真

学生部門　テレビCM優秀賞

総合情報学部四年次生　原田　宗平、矢間　清浩、森　和宏（平成十九年十一月十六日）

訃報

高松　武一郎（たかまつ・たけいちろう＝元工学部教授）十月六日死去。八十二歳。昭和二十二年京都帝国大学工学部化学機械学科卒。六十三年四月本学着任。平成七年三月定年退職。化学工学協会（現化学工学会）会長などを歴任。専門はプロセスシステム工学。

防災キャンペーン開催

千里山キャンパスでは、十一月三日、大阪府の協力のもとボランティアセンターが中心となり、学生スタッフによる災害時の備蓄米（五目ごはん）五百食分の炊き出し訓練が行われた。

当日は統一学園祭が開催されていたこともあり、多くの親子連れや学生が炊き出しの振る舞いを受け、防災に関するパネル掲示などに見入っていた。

（ボランティアセンター）

『関西大学通信』・関西大学ホームページ アンケート ご協力ありがとうございました

在学生のみなさんを対象に、本年七月九日から七月の間、インフォメーションシステムを利用して実施した「『関西大学通信』および関西大学ホームページに関する在学生アンケート」（十二月三日（月）から受付開始）について、合わせて二百二十四件の回答を得ました。

ご回答いただいたみなさんに、厚く御礼申し上げます。

なお、十一月二十九日付けでインフォメーションシステムの「お知らせ」にアンケートの集計結果を掲出しますので、参照してください。

関大検定結果発表

前号（第347号）第８面に掲載した「関大検定」に、在学生121人から回答があり、そのうち全問正解者は14人でした。たくさんのご応募ありがとうございました。正解は次のとおり。

〈解答〉

テーマ：学生生活	テーマ：人物	テーマ：データ	テーマ：歴史	テーマ：トリビア
Q-1　（d）	Q-5　（a）	Q-9　（b）	Q-13　（b）	Q-17　（d）
Q-2　（a）	Q-6　（c）	Q-10　（b）	Q-14　（c）	Q-18　（b）
Q-3　（b）	Q-7　（d）	Q-11　（d）	Q-15　（d）	Q-19　（a）
Q-4　（d）	Q-8　（b）	Q-12　（c）	Q-16　（a）	Q-20　（c）

平成19年度 学生生活実態調査を実施中

学生センターでは、本年11月21日から12月19日までの間、「平成19年度学生生活実態調査」を実施しています。

この調査は、本学学生の生活実態を的確に把握し、修学の状況や課外活動、福利厚生などに関する基礎資料を収集し、学生生活や教学面をサポートするための学生支援策を迅速に立案・実施するために欠かせないものです。

調査対象者は、学部学生から層別比例抽出法により6,000人を抽出し、郵送およびインフォメーションシステムにより協力を依頼しています。調査対象者として選ばれたみなさんは、趣旨をご理解のうえ、ご協力よろしくお願いいたします。

なお、この調査の結果は、平成20年度春学期中に「平成19年度学生生活実態調査報告書」として発行するほか、学生センターウェブサイトでも公開する予定にしています。

（学生センター）

関大通信 第348号
平成19年(2007年)11月29日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は1月9日発行の予定です

学園祭こぼれ話

"Kandaful days"をテーマに開催された今年の関西大学統一学園祭。
総勢200人余りの学園祭実行委員の運営により多彩なイベントが繰り広げられました。
ここでは、華やかな祭を支え続けた、彼らの笑いと涙のこぼれ話を紹介します。

11月1日から4日までの4日間開催

「まかせんしゃい」

学園祭準備中の一番忙しい時に、緊急に帰省しなければならなくなった。メンバーとうまく付き合っていけるか、人間関係に不安を持っていたときだったので、とても言い出しにくく、気まずい思い。でも「俺らが頑張るけん、こっちのことはまかせんしゃい！」というメンバーからのメールを受け取り、ほんまにほんまに嬉しく思い、感動した。それ以来、作業の相談もしやすくなり、仲間になれたように思った。メールは今でも保護って(保存している)る。

(パンフ局　社会学部2年次生　吉山　はるかさん)

朝ねぼう

学園祭期間中は4日間とも朝7時集合。私の起床時間は朝5時半。しかし、3日目、目覚めると朝7時半だった。ケータイには不在着信の嵐。友人たちは7時からの30分間に合計100回、私に電話をかけたそうな。実行委員は持久力と根気が必要だ。

(パンフ局　社会学部2年次生　岩佐　早希さん)

鎖男

初日のオリエンテーションの際、KWA（関西大学プロレス連合）の極道邪神さんが鎖を持ちながら私に歩み寄り、無言で鎖の破片を渡してきた。そのことを友人に話したら、他にも大勢破片を受け取っていたとのこと。破片の数だけ邪神ファンが増えたことだろう。

**(模擬店局　共同購入長
文学部3年次生　谷岡　志保さん)**

歩きたばこ!?

学園祭期間中、来場者のみなさんが気持ちよく過ごせるように、実行委員がマナーの向上を促していた。そんな矢先、歩きたばこのお客さんを見つけたため注意したところ、たばこではなくチュッパチャプス(飴)の棒だった。それ以来、学園祭終了後も歩きたばこの人の口の先を凝視してしまう。

**(統一学園祭実行委員長
経済学部３年次生　村上　史侑さん)**

花火が…上がら…ない？

最終日の後夜祭終了後、実行委員長として挨拶をすることをすっかり忘れていた。自分の名前が呼ばれ、中央ステージに上がり、なんとか平静を装いつつ、「ただいまをもちまして、2007年度関西大学統一学園祭を終了します！」と言い放った。段取りとしてはその終了宣言直後に花火がドーンと打ち上がる予定だったが、全く爆音が聞こえてこない。15秒後にようやく打ち上がったが、その間は今まで生きてきて一番長い15秒間だった。

(統一学園祭実行委員長　経済学部3年次生　村上　史侑さん)

▶編集後記◀

三面に掲載のFDフォーラムに参加したところ興味深い講演があった。

これまで写真が中心であった学園祭記事にこぼれ話が加わった。十一月三・四日の連休の様子は見ていないが、準備をしている学生が活き活きとしていたのが、強く印象に残っている。

手や体を動かし、色々体験すると耳から入った情報でも深く理解できるようになってくる。

三年次生は就職活動が近づいてきた。大学生活の送り方を工夫してきているとあまり困らないのではないか。あまり考えてばかりいないで手足を動かして何かに取り組むことからはじめてほしい。

ランダムアクセスの難しいメモリに書き込むような作業はお互いにつらい。

(飯田　幸雄)

今月の表紙

栗原　宏武（くりはら・ひろむ）教授

専門は刑法と少年法。裁判官として大阪高裁部総括判事・大阪家裁所長等の要職を務め、平成十六年九月の定年退官と同時に本学に着任。法曹界をめざす学生の指導に情熱を燃やしている。大阪府公安委員会委員長。